

SYDかわらばん

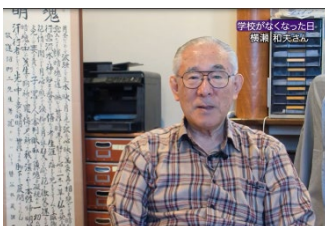
＜最新活動情報 No.169＞ 2022 年 12 月 20 日号

かわらばん特別企画「修養団と私」

1月号よりスタートいたしました「修養団と私」。毎月、修養団運動推進の原動力として、各地で活躍されている方々に特別寄稿いただいております。

修養団と私「いつも私の心の中に修養団が」

修養団上越 会長 横瀬 和夫



私は現在87歳、振り返ってみれば数奇な運命の連続だったのかもしれない。

当時日本の統治下にあった大連市（現

在中国遼寧省）で、昭和10年長男として出生。そんな平穏無事な様相が一変したのが、昭和16年12月、アメリカに対しての宣戦布告であった。やがて父にも召集令状が、そして9月、台湾沖で搭乗船が攻撃され沈没、戦死の報が。母33歳、私（和夫）小学校3年生、弟（輝夫）1年生、妹（幸子）生後4ヶ月、自身の生活にも危険が迫ることになった。その頃戦況は益々悪化し、やがて昭和20年8月15日、日本が戦争に敗れ終戦をむかえた。私（和夫）は、小学校4年生だった。

やがてソ連軍が学校を占拠。学校が閉鎖になり、中国八路軍の入城で、住宅や財産を没収され収容所生活になった。そして1年8ヵ月後、昭和22年3月に日本への帰国命令があり、長崎県の佐世保港に上陸した。昭和22年の冬は、まれにみる大雪の年で、新潟県高田駅には夜行列車で朝の6時着した。当時の高田市では積雪が3メートルも積もり、雪道を8時間かけて、中心地から約6キロ山あいの百姓家であった母の実家に到着した。

昭和22年4月に、菅原小学校の6年生に編入した。昭和23年4月には中学生で、ラジオ技術者の資格を通信教育で取得するラジオ少年だった。

卒業後、高田市（現上越市）の企業よりラジオ少年を探しているとの情報を得る。その会社で視聴覚技術者を目指すことになった。

私と修養団との出会いは、社長との縁であった。社長は戦前、修養団黒川支部の幹事をされていて、私もさっそく修養団の研修に参加をした。研修で

学んだ「愛と汗の心」を実践し「骨身を惜しまず」活動をした。以来、修養団を精神的な支柱とすることになった。

昭和34年11月、勤務先の社長様のご理解もあって、和夫24歳で横瀬オーディオを創業した。

昭和35年12月結婚、妻（三代子）も東京からの疎開で、父親も昭和12年10月に戦死していた。和夫との共通した価値観をもって、私生活や企業経営・社会生活の面でも共有したベストパートナーである。

企業経営も順調に推移して、従業員には修養団上越支部の研修会に参加させ、私も支部の役員に任命された。

以来支部の修養団運動を存続拡大することに努め、次女は修養団支部の会員で、中学校の教師として、SYD出前講座「貧困と共に生きる子どもたち」を数回開催。その長男（孫）は大学3年生、桧原湖畔青少年少女キャンプには小学生から参加、現在はリーダーとして、キャンプを中心にSYDの活動をしている。

個人的にも各種団体のリーダーを仰せつかり、PTA会長を10年務める。（新潟大学附属で5年、上越教育大学附属で5年）。他、多くの会長職や役員を仰せつかることができたのも、常に人のために汗を流し行動（実践）する修養団精神を常に中心に据えていたからこそである。



【SYD修養団リフレッシュセミナー 上越会場にて
“今伝えておきたいこと「お陰様でを原点に」”をテーマに講話】

横瀬 和夫さんへ《質問コーナー》

- ① 好きな言葉
→「お蔭さまでを原点に」
- ② 私のおすすめの本
→「多すぎて回答不能」
- ③ 好きな食べ物 →「あっさり系醤油ラーメン」
- ④ 趣味 →「若いうちは家内と旅行」
- ⑤ 最近ハマっていること、または始めようとしていること
→「青少年団体の育成」
- ⑥ 夢 →「献血500回達成したかった」
429回(65歳で年齢制限)
- ⑦ 会員の皆様へ一言メッセージ
→「骨身を惜しまず、頑張ってください！」
私自身やりだしたら止まらない

➡ご感想やメッセージなどありましたら、
ぜひSYD社会教育部までご連絡下さい。

主催事業・活動等

報 告

12/3…第6回「東京ベルズ」チャリティーコンサート68人〔東京都渋谷区・SYDホール〕



第6回チャリティーコンサートがNPO法人「東京ベルズ」の協力のもと、3年ぶりにアカペラコーラスで開催。「クリスマスメドレー」や「夢で逢いたくて、もう一度」などの名曲から、来場者を楽しませるユニークな新曲も披露。また今年は少年少女合唱団STELLA&EnsembleLUCÉも賛助出演し、子どもたちの素晴らしい歌声やベルズとの合同演奏など、大いに盛り上がった。



さらに、SYD青年部の山口千恵子部長と増田航介職員から、映像を使って「フィリピン・パヤタスのゴミ捨て場で生きる子どもたちとSYD」をテーマに活動を報告。当時高校生で参加した



た平松倫太郎さん(大学生)より体験談が伝えられ、参加者からは、涙を流す姿も見られた。

その後、東京ベルズ出演者各々が一年間貯めた献金箱を今年も幸せの種まき献金委員会に手渡した。

昨年に引続き来場できない方に対して、「心の参加者」(あなたがサンタクロース!)と称して呼びかけた結果、個人30人及び団体から多くの寄付があった。収益金は上記寄付と合わせて「幸せの種まき献金」に入金され、ストリートチルドレンの支援に活用される。



12/3～4…「子どもWAKU×2ひろば」(北九州)26人〔福岡県北九州市・市立かぐめよし少年自然の家〕 《板倉和也》



久しぶりに開催するキャンプということから、「キャンパーもリーダーも楽しいキャンプ！」を目指して準備を進めた。プログラムは、子どもたちは体を動かしたり話合うことで仲良くなれると考え、ウォークラリー、ニュースポーツ大会を実施。特にボッチャ・モルック・卓球バレーなどの競技ゲームでは「楽しい、もっとしたいよ」「次のキャンプでも他のゲームしようね」との声があがり、笑顔があふれるキャンプとなった。

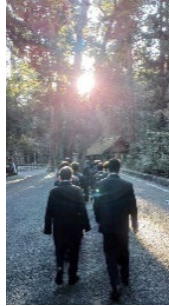
〈発信・眞子瑞紀〉



12/6～9…第1220回「みがく講習会」14人〔三重県伊勢市・伊勢青少年研修センター〕《武田数宏、寺岡賢、山崎政弘、斎田聖生、竹本英美、亀田希奈里》



3泊4日主催講習会。5社から14名が参加。今回も修養団理事・宇部市連合会会長岡村精二講師に講演をいただいた。少人数ながらも若手社員やベテ



ラン社員のバランスがよく、お互いが学びあい、活気に満ち溢れた会となった。

12/7～8…「組織活性化のため講師派遣」(美幌)19人〔北海道美幌町・美幌町町民会館〕

《板倉和也》

美幌会・端野会19名が集まり、板倉和也SYD講師補の講演や情報交換を通して、今後の組織活動の更なる活性化と、本部との共催事業開催に向けて、話し合いをおこなった。



12/10～11…「子どもWAKU×2ひろば」(伊勢)77人〔三重県伊勢市・伊勢青少年研修センター〕

《山崎政弘》

今年のテーマは「プレゼント工場を救え」。大学生を中心に10月から打合せや準備をし、当日の運営を進めた。子どもたちは“こびと”になって、悪者に荒らされた工場を協力して救うという内容でプログラムを進行。ゲームやダンス、キャンドルの集いなどを実施、特に1週間かけてつくった巨大な迷路が好評であった。

参加した子どもたちからは「来年も参加したい」と声があり、楽しみながら信頼さ



れることの喜び、協力することの大切さを学べた2日間となった。



12/10～11…「子どもWAKU×2ひろば」(福山)8人〔広島県福山市・県立福山少年自然の家〕《谷野渉》

3年ぶりの活動で参加者の多くは、リピーターであった。

ポイントラリーでレクやクイズをして食材をゲット。みんなで協力して作ったカレーはとても美味しくできた。夜はキャンドルサービスをして大いに盛り上がり友情を深め、工作では、ひっかき紙と電飾でオリジナルのツリーを作成。出来上がった作品をカウントダウンと共にライトアップした際には歓喜の声が上がった。



12/11…「子どもWAKU×2ひろば」“第6回みんなdeにっこりクリスマス！”(東京)53人〔東京都渋谷区・SYDホール〕《板倉和也》



今年はSYD東京とコラボで開催。「ブラックサンタと伝説の種」という体験型のプログラムで冒険者たちと一緒にゲームをクリアして、ブラックサンタを改心させるという物語。リーダーたちのヒーロー

ショーや脱出ゲームのような内容に、子どもたちからは歓声が上がった。午後は「サンタクロースとめぐる世界の旅」というスタンプラリーで、地名特色を生かし、生態系・ごみ問題などSDGsについて学ぶ機会となった。



最後には修養団日立電子サービス五十鈴会OB会の伊藤孝行サンタからプレゼントをもらい、思い出に残るクリスマスパーティーとなった。



12/18…「Zoom でオンライン家庭《共育》ひろば」「誰でも楽しめるキッズヨガ」

《講師:ミナクシミよこ》

※詳細次号

【幸せの種まきキャンペーン《出前講座》】

《山口千恵子、谷野渉、増田航介》

報告

11/25 千葉県柏市立柏第五中学校	250人
12/9 石川県珠洲市立宝立小中学校	46人
12/12 那覇市立真和志中学校	135人
12/13 沖縄県立コザ高等学校	40人
12/14 沖縄カトリック小学校	46人

予定

12/26～30…第1回「子ども自然体験スキーキャンプ」〔福島県北塩原村・ばんだいふれあいびあほか〕
《板倉和也、谷野渉、増田航介》

会員組織の主な動き

予定

12/24～25…修養団伊勢いなほの会「辻幹雄さん11弦ギターコンサート」〔三重県伊勢市・伊勢青少年研修センター〕

報告

12/11…修養団宇部市連合会「第52回宇部市街頭美化清掃」250人〔山口県宇部市〕
修養団宇部市連合会主催の年末街頭美

化清掃を11日におこない、250名が参加。



今年はコロナ禍で企業や学校からの参加者は少なかったが(例年は450名ほど参加)、宇部市副市長に参加いただいた。参加者は1時間ほど、竹ぼうき、火ばさみ、熊手を持って、落ち葉を中心に空き缶やペットボトルなどのゴミを拾い、さわやかな汗を流した。

また、12月1日には琴崎八幡宮の清掃奉仕も実施した。



《12月9日付宇部日報記事》

情報あれこれ

⊙チャリティ講演「たたずむその場所で」～「パヤタスに降る星」より～公演



11月25～27日、山口千恵子SYD青年部長の著書「パヤタスに降る星」を題材にした舞台を7回公演。今回は特別に親子で参加可能な貸切日も設け、多くのお子さんも来場した。舞台後、今回のプロデューサーで俳優の毛利杏奈さんが来団し、収益金の一部とご友人からの寄付合計230,000円をフィリピン・パンガラップの学校支援として、幸せの種まき献金委員会岩佐加寿子委員長に直接手渡された。

<発行・連絡先>

SYD(公益財団法人修養団) 社会教育部
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-25-2
☎03(3405)5441 FAX03(3405)5424
E-mail: info@syd.or.jp
ホームページ: https://syd.or.jp/
SYD 検索